

一九七七年一月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社 発行人 滝野 忠

e-mail: shakatsushin@net4.com

東京都渋谷区本町六丁目一八の二コーポビル九〇四 電話 03-3337-4649 FAX 03-3299-5367

郵便 100-1001 九一五八四三二 発行者 中央発行人 No.1154163

購読料 月額 700円 6カ月前納制

〈もくじ〉

■巻頭言

今こそ国家と資本からの「教育改革」に対決するとき!

六津五郎……………2

労働者生活、そして労働力再生産率

木下 倫雄……………3

「九条ネット」 二月二四日に発足総会

……………4

滋賀「嘉田新党」旗上げ

……………4

◇続 立春放談◇

キューバ・カストロ、ベネズエラ・チャベス

……………5

社会主義への新たな動き

サラリーマン川柳と生活

……………9

国鉄分割民営化満二〇年、その実態は

……………11

—政府は民営化のモデルと自画自賛しているがとんでもない!—

読者からのおたより……………14 編集部だより……………10

# 旬刊 社会通信

NO. 993

二〇〇七年三月一日号

二〇〇七年三月一日発行  
(毎月一日・二日・三日三回発行)

## 「今こそ国家と資本からの「教育改革」に対決するとき！」

旬刊社会通信No.九八九(一・二一号)に、品川区の「教育改革」による小・中学校現場の恐るべき荒廃状況が具体的に報告されている。

この都内つまり全国にさきがけた実施は八年前(九九年)からで、国内的には「トップランナー」の先導的試行ではあったが、周知のようにサッチャー教育改革は二〇年ほど前から始められているので、いわば「二周遅れのトップランナー」だったわけだ。

一月二十五日朝刊各紙は、「教育再生会議」の提言のいくつかを来年度から実施すべく法改正など制度いじりをする旨の政府決定を報道、そのうちの一つ「ゆとり教育を見直し、授業時間数を一割増やし、それを土曜日に行うようにする」という方針に私はもつとも注目した。その方針の背景には、学力低下を食い止め、回復しないと外国にますます後れをとるという「国力、国益論」が控えていると思った。つまり、サッチャー及び品川、日本の「教育改革」は、新自由主義経済競争原理、能力主義・学力一元的な競争主義という一連の「文脈」において位置付けられるということだ。

もともとサッチャー流は、いわゆる「英国病」という平等主義的な停滞に、競争原理(フリードマン的なバウチャー制)を導入し、カツを与える―それを学校制度・現場に持ち込んだのだ。その二〇年にわたる結果は現場や教員を傷めつけ、公教育は経済原理とは馴染まないということを改めて教訓として引き出したのである。ところが日本では、この教訓に目をふさぎ、品川の状況を無視して、国家権力的に「ゆとり」策全否定のゴーサインを出した事になったのである。

前述した「一連の文脈」は別段目新しいことではなく、経済や労働の分野では、その過度の利潤獲得競争や効率主義、合理化、能力給制の帰結としての弊害の噴出として、以前より指摘され、知られていたことである。

それを公教育の分野で「改めて」ぶり返そうとしているのだ。二十年以上前から、おびただしい学校・教育荒廃病理が深刻な社会問題となっており、週休二日制とも絡んで、苦肉の策として「ゆとり」「総合学習」「単位制高校」など「対症療法」として緩和策が打ち出されてきたが、その「ぶり返し」を小・中学校において先鞭をつけたのが品川方式だったのだ。

この「一連の文脈」に耐えられ、利益を受ける子ども・青少年・家庭はほんの一握りの階層なのに、多くの親・国民は「競争・選択の自由」によってこの「利益レース」に参入できるという幻想に囚われて、この「一連の文脈」すなわち政府(国家・プラス資本)の方針を支持しているが、結局自分の首を絞めることになることに気付かないのである。犠牲者はまさに子どもたちであり、日頃、いじめ不登校、自殺、荒れなどで切ない悲鳴をあげているのだが、多くの親・国民らにもその声は聞こえないのである。

渋谷区の歯科医宅で起こった事件も、その「悲鳴」だったのではないのか。

「一連の文脈」を全否定するところの共生・共存の人間観、すなわち、国家や資本

に捧げない学力観に覚醒しない限り、私たちは永久に解放されないのだ。障がい児の「分離」から「統合」への転換も、そのことを根源的地平から呼びかけている一つなのである。(六津五郎)

## 労働者生活、そして労働力再生産率

社会通信No.九九〇『現代労働運動とユニオン運動』を読み感動、思わずワープロを叩いています

私は三〇年ほど前(一九七〇年代)かな

総評の『家計調査委員会の委員長』をしていました

そこで学んだ、労働者の貧しさを今でも忘れられません

労働運動の原点は『労働者を、貧しい生活から解放すること』だと思います

最近四〇(一九六〇〜二〇〇〇)年間に標準四人世帯の

生活費は 一九倍(二・六万円〜五〇・七万円)なのに

賃金は 一五倍(二・〇万円〜三〇・四万円)なので

家計赤字は 三二倍(〇・六万円〜二〇・二万円)

なのに税や社会負担が 九〇倍(〇・一万円〜 八・三万円)

人民からこんなに収奪しているのに

国の財政赤字は 四九三億(一・三兆円〜六四二兆円)

収奪した金(税金)を何に使っているのか

今朝のテレビでは、建設業者の育成に使っているんだとの解説

道路・ダム等に膨大な資金を投じているようです

現在は二〇〇七年、統計はどう変化しているか。以下私の予測です

労働力の再生産率は、基準賃金(労働力の販売価格)を総生活費(消耗した労働力の再生産費)でわったもの。

労働力の再生産率は

一九六〇年代は 七六・三% であったのに

二〇〇〇年代は 六〇・一% になり、年々低下の傾向なので

二〇〇七年は 五五・% 程度と推定できます

という事は、労働力を価値の半分ほどで売買している事

資本家は大儲け、労働者は大損

以前は、このような理論で春闘の要求をしました

すると、新聞やテレビで大々的に宣伝され、日経連は、私鉄総連の委員長に

『生活実態の要求内容は、困るから宣伝しないでくれ』と泣き付かれたそうです

最近の社会はいろいろ混乱しているようですが、その基本的な原因は家計の貧しさに起因しているようです。家計が貧しいので、主婦は内職や共稼ぎ

これでは、生活が崩壊します (木下 倫雄)

## 「九条ネット」 二月二四日に発足総会

一月二六日、確認団体「九条ネット」（略称「九条」）発足が確認された。「九条」とは憲法九条。「憲法九条を守り抜く」を目的につくられた確認団体で九条改悪をやめさせたい思いを票に託せない有権者、既成の政党では掘り起こせない憲法擁護の票を『戦争ではなく平和を選びたい人は投票へ！』『九条を守りたい人は「九条」を書こう！』とのスローガンで新たに開拓することを強く訴える。

新社会党は二月四日の中央委員会で①九条ネットの一翼を担い参院選を闘うこと、②当面、賛同人集約に全力を上げるとした。

九条ネットは選挙区候補擁立と共同の実現、比例と選挙区あわせて十人以上の候補擁立、すべての憲法擁護の政党・グループ・個人の共同をめざすことを目的とする。発足総会は二月二四日（土）午後一時三〇分から文京区民センター（東京都）で開かれる。

参院東京選挙区（五名区―自・民2、公・共1擁立予定）から無所属候補として川田龍平さんが「葉害エイズのときもそうでした。『どうせ、何をしたらって無駄だ』とあきらめるのではなく、周りの人たちと一緒に頑張ってとりくんで来たことが、一人ひとりを動かし、その一人ひとりが行動したことが画期的な裁判の和解へとつながった」  
「世界とアジアの中で、過去の歴史を見つめ、未来に希望を持って、子どもたちを育み、いのち、自然、誇りを伝えられる社会をつくりたい」と、立候補を表明した。

## 滋賀「嘉田新党」旗上げ

昨年七月、滋賀県知事選で嘉田由紀子氏が、自民Ⅱ民主の候補を破り当選した。新知事は「新幹線新駅はいらない」「近江の湖を守れ」と訴え、「対話でつなごう滋賀の会」の支援を得た。新知事は県会に足場はない。

嘉田知事を支える「対話でつなごう滋賀の会」は、このほど四月の統一地方選で県議会に「嘉田与党」をつくるため、「嘉田新党」を旗上げ。一月三十一日、九選挙区の十一人の公認、推薦候補を決めた。滋賀の選挙区は全部で一七で、三月上旬までに全選挙区に擁立する方針だ。県議会（定数四七）で過半数の二八議席を占める「自民党・湖翔クラブ」を過半数割れに追い込みたいというのがそのねらいであるようだ。

「朝日」（二月一日付、滋賀版）によれば、「対話の会」と擁立候補十一人は①新幹線駅の建設は「限りなく中止に近い凍結」、②河川政策は現計画の凍結・見直し、③廃棄物行政は地域型循環を目指す―を柱とする政策協定を結んだ。

嘉田知事が彼らを応援するのか、「嘉田新党」立ち上げで自民、民主はどう動くのか、さらに「嘉田新党」候補に名を連ねた沢田たか子県議（日教組出身。知事選で教組方針に違反、民主党応援せずで県教組推せんせず）をめぐる、社民党と新社会党が協同歩調をどのようにとるかが焦点となる。

◇ 続 立春放談 ◇

## キューバ・カストロ、ベネズエラ・チャベス

社会主義への新たな動き

### ラテンアメリカと日本

**司会** 「ラテンアメリカの政治状況、おもしろい。もつと伝えて」との便り、言葉をいただくことが少なくありません。とくに、ベネズエラのチャベス大統領の「歴史の実験」についてです。

**A** ラテンアメリカ（中南米）地域は日本の裏側。行くのに時間がかかるんだよね。治安はよくない。ラテンアメリカに出かける人は「冒険心」ある人ばかりといっている。

**B** そんなことないだろう。インカの古代文明、コロンブス時代の「大航海」、現代ではキューバの二人の英雄、カストロさんとゲバラさん。カストロさんの病状はどうなつてると関心はひじょうに高い。大書店に行くとチャベスさんの本以上にゲバラさんの本が並んでる。キューバでいえば米軍占領下にあるグアンタナモ基地ね。そこに、今でもタリバン、ビン・ラディンの「一派」とされたアラブの人びとが閉じ込められている。

最近ではエル・ニーニョ現象、アマゾン環境破壊等、地球温暖化現象でも注目を集めている。

**C** みなさんおっしゃるとおりで、ラテンアメリカへの関心は大きくなっている。でもこれまでラテンアメリカに注目したのは①古代文明研究者、②ラテンアメリカで儲けられないかと企業進出の条件をさぐるジェトロや企業関係者、③歴史研究を対象とするスペイン語学者、したがって、「生」のラテンアメリカを分析する者はほとんどいない。ラテンアメリカ関係の本は旅、国勢調査等のハウ・ツウものを除くとウンと厚い。売れないから値段はさらに高くなる。高い大部の本を買って読んでも、あまり中味はないんだな。だからますます売れなくなる。この悪循環がずっと続いている。カストロさん以後どうなると、関心集めているキューバですら基本的なこととはほとんど伝えられていないんじゃないか。

### キューバは医療・教育大国

**A** キューバは医療・教育大国っていわれるね。チャベスさんが進める医療・教育改革は、キューバの支援と援助なしには成り立たないと聞くんだけど。

**D** 教育費は小学校から大学までただ。識字率は世界でもトップレベルじゃないか、米国より高いと思うよ。他のラテンアメリカ諸国とは比べものにならない。

日本じゃ「医者になるには金がかかる」が、キューバでは医学部だって学費はタダだ。だから、誰でも医学を学べる。しかも中南米の国ぐにの貧しい人びとを受け入れる。もちろん学費はタダだ。これはすごいことだよ。

キューバ革命（一九五九年一月一日）前、キューバのお医者さんは六千三百人だった。革命で亡命したお医者さんは二千五百人といわれる。亡命しなくともカストロ政権に非協力だったお医者さんがほとんどだったと思う。チリのアジェンデ政権、この政権はよく言われるように「社会主義の政府」ではなかった。社会主義を「平和的」に実現したいとしたのは社会主義を綱領に掲げたチリ社会党、共産党他の政党で構成されていたから当然のことだ。

アジェンデが大統領になった時、得票率は約三五％。アジェンデに猛烈に反対したのが①医師・弁護士といった上層インテリゲンツィア、②企業といってもほとんどが米系企業でその「経営者」層、③パイロット、銀行員。彼らは資本家デモを組織するんだ。チリは銅を中心とする天然資源を国家財政の基礎とした。国際銅カルテルが銅価格を人為的に下落させる。チリの財政は混乱する。なんといっても決定的だったことは軍にアジェンデの支持者がほとんどいなかったこと、ピノチウトのクーデターに大抗議デモを組織できなかったことだ。こうしたことの結果として、ピノチウトが軍事クーデターを起こす。アジェンデは生きることより死を選んだ。

A 今言われたことは、ベネズエラのチャベスを考える上でおもしろそうだな。そこからやらないかい。

D そうあわてなさんな。楽しみはあとの方が大きくなるってもんだ。

A キューバのお医者の話しだったね。

D 今、キューバにお医者なん人もいると思う、六万七千人だよ。キューバの人口は一千二百万人だから、一千人あたり約五・六人となる。日本にあてはめれば人口一億二千万だから五十六万人にもなるんだ。ちなみにお医者数は約二十五万だ。医療技術は低くなく、特徴は地域と密接に連動していることね。だから、平均寿命はラテンアメリカでもっとも長く、とりわけ国の状況を最もよく示す乳児死亡率は米国より低い。この医師団がラテンアメリカ諸国はむろんアフリカに派遣されて大活躍してるんだよ。チャベスのベネズエラには大量に派遣され、教育と医療の革命的な改革の中心になってる。言葉はスペイン語だから、意志疎通は楽なんだ。いずれにせよ、キューバでは医師は「特権階層」を構成していない。

### インターナショナルな大陸

司会 「通信」新年号九八八号がラテンアメリカの最近の情勢にふれている。特徴は何か。

A ラテンアメリカの民営化政策が全面的に失敗したことがもっとも大きな原因だ。一九八〇年代、ラテンアメリカだけじゃなく全世界にもすごいインフレと債務問題が起きた。ラテンアメリカは「大きくなりすぎた借金で困るのは貸し手」と、今度ペルーの大統領に返り咲いたガルシアは声を張り上げたことで「男の中の男」と拍手喝采された人物だ。当時、ラテンアメリカ全体がチリを除き反米に傾いた。だから、IBRD、IMF等の国際金融機関はラテンアメリカをとりわけ重視し、借金をとりたてる手法として国営企業を民営化し、売却された株式を借金のカタにした。

ラテンアメリカは国土は豊かだ。しかし、民営化政策で米国等の新しい帝国主義的経済支配が始まった。とにかく貧しい、貧富の差は激しい。不在者地主に耕作可能な土地が占拠されちまっている。メキシコでもブラジルでも行ってみればわかるが、スラム街が都市周辺に並んでいる。それに最近の特徴としてインディオ（原住民）が組織化され、政治的な力となってきたことだ。ポリビアなんかとくにそうだ、ペルーでガルシアの対抗馬だった、ウマラもそうだ。今、罪人としてチリで幽閉されているあのフジモリも「自分は移民の子、貧しい者の味方」と原住民に頼ったのはみなさんもよくご存じのことだ。

**B** 原住民の多いのはどの国か。南アメリカの国々に（アルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイ）は一九世紀以降、ヨーロッパから出稼ぎした白人がほとんどだ。ブラジルは棉、ゴムのプランテーション農業が米国資本で運営され、アフリカからの黒人奴隷が労働力となった。だから、黒人、黒人と白人の混血であるムラートが多い。

スペインの大航海、略奪時代の対象はアンデスの山々の国々、メキシコ、ペルー、エクアドル、ポリビア、チリだ。原住民が今も多いのはペルー四五％、エクアドル二五％、ポリビア五五％、ベネズエラは白人二二％でメスチソ六六％、黒人一〇％、先住民二％とある。ラテンアメリカではカリブ海諸国では原住民は絶滅させられ、インカ等の富略奪の対象となったアンデスの峰の国々では先住民が生き延びたのです。北米大陸でインディアンが絶滅させられ、特別な保護区で生存しているのと同じだ。

### ベネズエラそしてチャベス

**司会** チャベスのベネズエラについて。聞きたい点は①ベネズエラはどんな国か、②チャベスとはどんな人物か、③チャベスの権力掌握の過程、④チャベスは社会主義者か、⑤そして最後にチリのアジェンデとチャベスの根本的違いは何か。

**D** まずベネズエラという国について。面積は約九一・二万平方キロ（日本の二・七倍）、人口は約二千五百万（日本の五分の一）、富の大部分は天然資源で石油、天然ガス他鉄鉱、ダイヤモンド、金だが、国家財政の中心は石油だ。一昨年来の原油価格高騰がチャベスのポリバル革命の原動力だ。ラテンアメリカではどの国もそうだが、白人が経済、したがって政治の主導権を握ってきた。今、白人からメスチソへの過渡期にある。その象徴がチャベス、ブラジルのルラだ。

チャベスは元軍人、陸軍中佐だ。彼は一九五四年生まれ、中産下層（といつても、ベネズエラでは中産上層かな）の教員家庭に生まれている。彼は先住民、スペイン人、黒人の混血だ。七五年に士官学校陸軍工兵学科を卒業し、陸軍少尉に任官した。陸軍少尉時代、非合法政党・ベネズエラ革命党を率いていた指導者と接触があった。彼がベネズエラ革命の祖と崇拜するシモン・ポリバル（一八一〇年代前後、スペイン貴族が統治した体制をくつがえしたラテンアメリカの歴史的英雄）です。シモン・ポリバルはラテンアメリカ生まれの白人だったのです。ここには、植民地国家で支配される人、それを支配したスペイン王国との対立・対抗関係があった。北アメリカでいえば宗主国イギリスに対するワシントンを中心とするアメリカ生まれの人による独立戦争

と構図は同じです。

チャベスも尊敬し、キューバがもつとも尊敬する民族独立の英雄ホセ・マルティは二〇世紀前後、アメリカの植民地支配に抗し闘った人物です。百年という時代の違いはありますが、ボリバルは宗主国スペイン、マルティはアメリカに抗し独立を闘い、闘いの中に倒れた共通項をもっている。

旧くはカストロ・ゲバラ、そしてアジェンデ、現代ではチャベスというわけだ。チャベスは陸軍中佐だった九二年に政権打倒のクーデターを起こした。しかし失敗。逮捕された。九四年に恩赦で釈放された。カストロはゲリラ、革命家として一九五四年にグランマ号で蜂起、失敗。とらわれの身となり、時の政権バチスタは彼の抹殺をはかった。だが、軍事法廷での「歴史は私に罪を宣告するだろう」との大演説が、カストロをキューバの英雄とし、バチスタはカストロを殺せなかった。カストロはメキシコに亡命、再起をはかる。ここいら、チャベスとカストロに何か似通ったものがありますよね。

チャベスはその後、第五共和国運動（MVR）を結成、左翼政党と連合し一九九八年の大統領選挙で勝利した。チャベスの現在への活動はここから始まります。

## 二回のクーデターがチャベス政権強化

**司会** チャベスを何をやるうとしているのか。

**A** 人民権力の創造だ。彼は九八年の大統領選で①貧者救済、②新憲法制定による「民主的革命」を訴え、圧倒的に支持された。ベネズエラは豊かな富、資源をもつ。世界五位の生産高を誇る日産三百万バレルの石油だ。この石油は国民のために使われるのではなく、特権階層に私的に流用されてきた。さらに土地だ。土地なし農民が数百万もいるのに、耕作可能な土地が不在者地主に囲い込まれ、有休地として眠っている。さらには、貧乏人は教育を受けられず、医者にもかかれない。こんな社会を新しくつくり変えたいとの希望である。

チャベスは九九年に新憲法をつくった。大統領の任期を四年から六年に延ばし、二期できるようにした。国会は一院制とし、国名をベネズエラ共和国からベネズエラ・ボリバル共和国と変えた。教育、医療、土地改革がおこなわれ、二〇〇〇年に再選された。この時、チャベスは一つの決断をする。期限は一年だが、大統領があらゆる政策を実現できる権力をもつ「授権法」を制定したことだ。「授権法」というとナチス、ヒトラーの独裁政治を想像させるが、ベネズエラにあっては前大統領も「授権法」を制定し、政治権力強化の手段とした。

革命過程が加速されると不安をもったマスメディア、財界、軍の将軍たち、労組が〇二年四月クーデターでチャベス打倒をはかった、チャベスは四十七時間幽閉された。チャベスを救ったのは、何百万人もの人民が街頭に出て愛国的な軍人といっしょになって、クーデターを粉砕した。これが第一の危機。この時、軍と民の同盟が大きき力となった。

第二の危機は石油をめぐるおこった。国家経済の心臓部である石油公社（PDV

SA)の活動を停止させようと謀った。船舶、港湾、燃料供給システム、精油所、油田などに対するサボタージュ計画、資本家ストだった。主謀者はCTV(労働者連盟)、経団連、AD(民主行動党)などで、PDVSAの経営管理者が先頭に立った。この時も、チャベスを支持する人民は二百万デモでゼネストを粉砕し、第二の危機は突破された。この時、チャベスはPDVSAの古い管理者、軍隊の將軍たちをすっかりとり変えた。チャベスの革命過程が一気に進んだのはこの時からだ。それまで石油の国有化はやりたくてもできなかった。しかし、国家機構改変を人民の支持とその飛躍的發展が、石油の国有化に進む条件をつくったのだ。

チャベスの政策がどれほどの支持を得ているかは昨年末行われた大統領選で六一%もの得票を得たことでも明らかだ。クーデターがチャベスの支持基盤をつくったのだ。反動派は○五年の総選挙でも失敗した、彼らは選挙をボイコットした。その結果、一院制の国会はチャベスの党が独占している。反動派は大統領選びで大敗し、国会に議席をもっていない。共和国の社会経済変革、少数者が国富を独り占めする古い経済支配の鎖を断ちきる諸政策の実行が「授権法」を背景にきわめて速く、大胆にすすめられていくと思う。

C そんな経過もあるんだ。そうするとアジェンデとの対比はじつにはつきりする。A そういうこと。アジェンデはピノチェトとがクーデター起こした時に国民を立ち上がらせることができなかった。ベネズエラでは四十人を超える將軍・提督がクーデターを起こした。それを民放テレビが支援した。しかし、彼らは守備隊一つすら蜂起させることができなかった。將軍たちは部下にとらえられてしまった。決定的な違いはここにある。

司会 チャベスはこれからどうしようとしているのか。

A ボリバル革命の深化だ。土地、資源の国有化、そして教育・医療・地域生活の革命的改善だ。対外的にはベネズエラとの友好諸国の拡大だ。

チャベスは新たな授権法を提出し認められた。さきにもいったように国会に反対勢力はいない。一気に進んでいく。

司会 「権力をソビエットへ」などのレーニンの言葉も使われている。革命基盤はどうなるのか。

A 地域に深く根をはることはないか。カストロを師と仰ぎ、キューバとはきわめて親しい。キューバの組織づくりが参考にされていくと思う。と同時に、すでに職業別、年齢別、地域等でさまざまな組織がつけられている。こんな組織がなければ二度の危機に何百万人を動員する力を發揮できるわけではない。

## サラリーマン川柳と生活

川柳とは国民の「怒り」の表象である。第一生命が延々と続ける「サラリーマン川柳」は「三点セット+α」の時代(一九八七年頃)から始まった。ウサギ小屋、遠くなる我が家、噴出する汚職・腐敗、過労死等々への痛烈な批判、怨念が当時の川柳に

はあった。

世上は「そのまんま」現象、政治と金、企業の腐敗と汚濁、くり返しである。根はもつと深くなっている。「怒り」はさらに強まってよさそうだけれど、怒りは諦めに変わり始めているようだ。怒りにあふれた川柳が投稿されているのかもしれない。しかし、社会保障切り捨てで一儲けをたくらんでいる第一生命、と同時に「そのまんま入れます」とテレビ・コマーシャルを流しつづける外資系生保会社との競争を意識してであろう、この企画はすっかり迫力をなくした。

優秀作とされたのが「飲もうかと 言えば部下すぐ 車です」「妻タンゴ 息子はスノボ おれメタボ」「妻は待つ 年金半分 つかむまで」「ハンカチで ヨン様卒業 ぼくの妻」「冥王星 何だか他人と 思えない」といった他愛もない句ばかり。ただ一つ、世相を鋭く切り裂こうかというのが「犬はいい 崖つぶちでも 助けられ」くらいなものだ。

「日経」を除き、各紙は読者川柳を載せている。ここにも秀作と思われるものが少なくなかった。それに比し、元氣あり社会を鋭く告発するのは職場川柳、そして老齡者が発するソレだ。

兵庫県職「新聞ひょうご」には「通信簿 悪夢再び 成績給」「言われなき 格差が生んだ 非効率」「大事件 びっくりするのは その日だけ」がのせられる。

北海道にある協会病院帯広支部「日刊紙・なかま」はこうである。「総婦長 得意料理は ナース痛め」、「患者さん ほったらかして 委員会（いいんかい）」、「二人夜勤 ブザー鳴っても ナースコーヌ」

しんぶん年金者編集委員会「むしろ旗川柳」はもつと深刻だ。

「生きるのがムダと病院追い出され」「長生きをしてごめんねと子に詫げる」「骨太の方針庶民の骨しやぶり」「ヘルパーもベッドも取り上げ自立です」

介護をめぐる「人殺し」がどれほど各紙に報道され続けることか。これはまさに社会的殺人である。二月六日付「日経」は厚労省調査の結果、障害者自立支援法で、「全国で約一千六百人が施設サービスの利用を中止し、四千人余りが利用回数を減らした」と大きく伝えた。

## ◇ 編集部だより ◇

▽国鉄「分割」から二〇年。世は反動政治のまっただ中にある。

▽現状を正しく分析すると事態はこうなる。第一に、現在は一九八九年の矛盾の爆発に匹敵する第二の矛盾の爆発期であること。それは格差・二極化・ワーキング・プアが政治・社会問題となつて自民党政治を揺り動かしていることに示される。第二に、そうした事態は資本主義社会の根本を示し、労働運動再建の条件がつけられつつあることを示す。

▽向坂、岩井、灰原さん等諸先輩はつねに「資本主義社会とは何か」を告発しつづけた。今がその時代。だってそうでしょう。私たちの出番である。

## 国鉄分割民営化満二〇年、その実態は

―政府は民営化のモデルと自画自賛しているがとんでもない！―

### 国鉄と「借金」

▽国鉄…公共企業体として独立採算制。従って鉄道建設は自己資金による。  
▽長期債務（借金）は政府決定の新幹線建設の工事費を全て国鉄の借金で建設したため。

▽分割民営化時にドサクサにまみれて、本州四国大橋、青函トンネルなどの工事費も借金に上乗せ。借金三七兆円超える。八%前後の利息（借入先は郵貯がほとんど）。利息すら払えなくなる。

### 一九八七年四月一日 国鉄分割民営化強行採決で発足

JR各社…JR東日本、JR東海、JR西日本、JR北海道、JR四国、JR九州、JR貨物

その他…国鉄清算事業団（雇用対策室と資産売却業務等の部署に）、新幹線保有機構、鉄道通信、鉄道研究所、システム会社（出札業務コンピューターの開発）

上記、計一二社で発足。  
▽各社のその後

- ・本州三社…株上場により完全民営化。
- ・三島…一・三兆円の安定基金の利息と固定資産税半額の優遇でかろうじて黒字基金の貸し先はJR本州各社等に。八%から五%そして三%と金利低下が経営を圧迫。○六年度で返済が済むと、更に貸出先を見つけないといけないならぬ。

・JR貨物…JRにレール使用料を払う。固定資産税半額の優遇処置で黒字。  
・三島、貨物は民営化のめど立たず。株は全て国鉄清算事業本部（旧国鉄）（鉄道運輸支援機構）が所有。

### 借金返済策は破たん

・国鉄清算事業団…雇用対策室は一九九〇年三月三十一日に解散（四月一日一〇四七名の解雇）。

…資産売却債務処理部署は継続し、一九九九年三月三十一日に一旦解散し、四月一日に、鉄建公団の中に国鉄清算事業本部として継承、職員は全員JR各社からの出向者として身分移管。この時点で、十数兆円の資産売却にもかかわらず長期債務は当初の二五兆五千億から二八兆三千億に増大。借金返済断念し、国民の税金での処理と、タバコ一本一円を利息払いに当てることに。

現在は鉄建公団もろとも、○二年一〇月に独立行政法人 鉄道・運輸支援機構と改組。

資産売却したにもかかわらず長期債務の返済完全に失敗。国土交通省は詐欺罪に問

われるべき。

・鉄道通信…テレコムに改名↓Jフォンに株売却↓ボーダフォンに株売却↓アメリカ資本に株売却↓現在ソフトバンクがオーナーに。(マネーゲーム、ギャンブル投機そのもの)

・新幹線保有機構…一九九一年一月一日、所有する新幹線を各社に売却し、その資金をもって鉄道整備基金に改組。整備新幹線建設の主たる資金源となっている。

一九九九年三月三十一日、一旦解散し国鉄清算事業本部と統合し四月一日から鉄建公団に組み込まれる。

現在は鉄建公団、国鉄清算事業本部とで独立行政法人 鉄道運輸支援機構に。整備新幹線などの建設資金供給のための役割。

### 国労が分割民営化を反対した理由

・当時約三〇万人いた職員を二一万五千人という大量首切り。  
職場からの猛烈な追い出し。差別といじめで、二〇〇人近い自殺者が出た。  
・地方ローカル線の廃止…三島は大正時代の状況に。第三セクターに移管会社の九〇%が赤字経営。

・利潤第一で、事故の多発になる。

際限のない人減らし。駅ホームからの転落は日常茶飯事。国鉄時代も含めて長期に新規採用なしと保守部門の丸投げで技術断層、技術力低下に、早急な改善は非常に難しいだろう。保守職場の大幅削減で緊急の対応は非常に困難。復旧の遅れの原因。車両と信号はJRの職場で直せなくなってきたおり、JRの指導ではメーカーの技術を盗めと言うだけ(職場報告より)。

・分割民営化しなくても国鉄は一社で再建できた。長期債務の利息抜きでは黒字だった(だからJR本州は誰がやっても黒字になる構造)。長期債務と国鉄の資産(約二〇〇兆円とも言われていた)のバランスシートで黒字。民営化は国鉄資産のたたき売りだった。

・首切りの必要はなかった。一九八七年四月一日発足時、各社は欠員の状況だった。欠員数…約一万五千人内訳(北海道二八一、東日本七〇六六、東海三七九〇、

西日本一八五七、四国四三五、九州四一一、貨物四九一、他)

(当時の中曽根元総理発言) ↓国労をつぶし、総評つぶし、社会党を解体し、そして改憲が目的。

### 分割民営化一〇年後からの出来事

・一九九九年一月一日 国鉄債務処理法案成立。返済断念と国鉄清算事業団を鉄建公団に国鉄生産事業本部として一九九九年四月一日に移管。資産売却などのいくつかの業務が残っているため。現在も、大阪の梅田、吹田など、数兆円近くの資産が残っている。

・二〇〇二年二月二八日国労第一次原告団 鉄建公団(旧国鉄) 訴訟(地位保全等)

に立ち上がる。

- ・二〇〇三年一月二二日 最高裁はJRに法的責任なし。採用差別があったとすれば責任は旧国鉄が負う等の判決。
- ・二〇〇四年一月二日・千葉動労、全動労の各争議団が旧国鉄に裁判提訴。
- ・二〇〇五年四月二五日・JR西日本福知山線脱線転覆事故。
- ・〇五年九月一五日・原告団地裁判決「首切りは合法。名簿登載時不法行為があった。五〇〇万円の慰謝料支払え等」。↓この判決以降、闘う戦線が統一の方向に進み始める。(勝利解決の大きな条件)
- ・〇五年一月二二日産経新聞、当時の橋本元運輸大臣が尼崎事故を受けて「国鉄の分割民営化後悔している」旨のインタビュー記事掲載。
- ・〇五年一月二五日・羽越本線特急脱線転覆事故。
- ・二〇〇六年一月二日・国労本部が二二日の時効前に、残りの闘争団員の旧国鉄への提訴(損害のみ)。

### 国土交通省による鉄道事業の規制緩和のいくつか：事故の温床に

- ・運行ダイヤは認可制から届出制に。運賃割引も届出制に。↓スピードアップと他会社との競争の過剰な激化に。効率化として車両の軽量化(マニアは「走るんです」という言い方。つまり使い捨ての車両。軽いので風に弱い)でレールの保守の手抜きと絡めば、車両は空を飛ぶことにも。更なる脱線転覆の恐れは消えない。
- ・駅ラッチ内外での売店の巨大化↓規制緩和で飲食含めて出店可能に。
- ・駅施設は本来は安全施設。しかし、儲け優先で端に追いやられている。火災の時など、旅客の避難誘導などの対応など駅業務に新たな業務が増え、現要員で果たして旅客の安全が保たれるかどうか不透明な状況。JR新宿南口の実態を見てもその不安は高まる。
- ・安全規制の緩和で技術基準は全て事業者の自主的な努力に。↓際限のない安全軽視に。

↓JR西、東の脱線転覆事故の大きな要因の一つ。

↓事業者おまかせにより、国土交通省の鉄道の安全に対する理解力の一層の低下に。

JRを適切に指導できなくなる恐れ大。

▽職場の特徴・国労差別は程度問題はあるものの無くなっていない。安全関係の主要

な会議には国労ははじかれていて意見は反映されにくい状況。職場は人減らしと差別職場、上意下達で物言えない職場。

安全指導は机上のものが多く事故があるたびに場当たりの追加変更で現場は泣いている。

### 労働組合

・JR総連・JR内最大労組。旧動労が支配。運営は革マル方式で暴力と脅し。国労などへの組合差別を陰に陽に会社に強要も。ただ、内部でのごたごたがひどくなって

きてもいる。

・JR連合・JR総連から分裂。東海、西日本、四国、九州で最大多数。構成組合員から見て御用組合といえる。JRの利益優先暴走と事故体質へのブレーキ役は不可能だろう。

・国労・全動労・動労千葉…一〇四七名の構成組合。少数で、差別されている。だが一〇四七名の解雇撤回の闘いで、この二〇年間にわたる共闘や支援の財産が積み上げられてきている。この財産は大きい。更に、改憲阻止など平和や民主主義を守る闘いと結合でその輪を大きくする核としても重要。この財産を生かすことなしに、勝利は無いのでは。

## ◇読者からのおたより◇

勝つために 上京行動した時、滝野さんにお会いし、その時のことを永田さんに話しましたら、懐かしがっていました。長崎でも国鉄闘争、憲法改正反対の闘い等、運動が広がるよう頑張ります。

今、「国鉄闘争二十年・解雇撤回、労働契約法を考える長崎集会」を取り組み中。(長崎・N)

編集部より あなたがたの活動の報告、そして永田さんの一文を先日目にしました。私どものところに寄せていただければウレシイな。

CS運動そしてパスモ教育 残業一ヶ月四十時間の規則がCS(お客満足)運動とパスモ教育によって、多くの社員が六十時間(一ヶ月)を超える残業で、頭も体もクタクタです。抵抗はしています。(埼玉・U)

編集部より 私の足は京王線。パスモの宣伝が車内、車外に躍っています。その背後で労働強化が進行というわけだ。

一千五百号めざせ 一千号までまじかですね。ご苦労様です。次の一千五百号に向けてよろしくお願います。(横浜・T)

編集部より 一千五百号と相なりますと、私めはいくつになるのかな。まだ七十歳とちよつとくらいだ。がんばれるかな？

県議選でネジレ 現在、私の地元では、過去二回労働界が推薦してきた「民主党」の県議会議員に、現職の自治労書記長(四四歳)が、職を辞し推薦を破棄して挑むという事態に至っています。社民党大分県連及び自治労大分県本部は、現職(民主党)支持というねじれた状況下でのチャレンジです。地方からの反乱(正常化)をこの地から目指します。(大分・A)

編集部より 日本やはり狭いようですが広いですね。いろんな反乱が起きているんだ。またご報告よろしく。

勝利つかみとる 何と言っても二十年も経過したJR採用差別事件、支援の皆さんと共に勝ち取った「清算事業団に責任あり」の九・一五判決を橋頭堡として何としても勝利解決をつかみ取らなければなりません。深川闘争団、全力を尽くして一線の闘いに奮闘していきます。支援の皆様の、より一層のご支援とご指導をお願いする次第です。(国労深川闘争団・団員家族一同)

編集部より 「勝つ!」「絶対に勝つ!」との信念でがんばって。

「社保庁」への視点を 私は社会保険事務所の国民年金担当として毎日残業で母と二人暮らし。通勤時間は一時間で、高田駅から最終電車で八時のためタクシーで帰宅することも多いです。泥船に乗せられている。これからどうなるんだ。でも毎日タバコと一緒に喫う仲間と、労働力だけ売っているんだと話しています。マルクス・レーニンを学んできたのにこのありさま。組合は方針転換、従業員はいても労働者はいない職場になり、休日出勤はあたりまえ、収納率を上げることが至上命令になっています。国鉄闘争、郵政ユニオン等に学び労働者としての極道になりたいと思っていますが、できていなくて流されています。貴社に置いても社会保険庁職場をどうとらえるか記事として載せてください。(新潟・T)

編集部より 自治労の仲間から、Tさんが望まれている指針が提案されています。次号に掲載します。ご期待です。